

町長施政方針

(その2)

3月号に続き、町長施政方針の内容を抜粋してお知らせします。



◆観光振興
島根県が進める「神々の国しまね」プロジェクトも大詰めを迎え、二十四年七月から十一月まで開催される「神話博しまね」のイベントを中心に本格的な取り組みが予定されています。



▲7月から開催される「神話博しまね」

本町においても、これを絶好の機会としてとらえ、引き続き観光誘客に向けた体制整備、拡充を図ります。
特に、東京国立博物館での神話博会場における「たたらシンポジウム」の開催など、鉄道の道文化圏の構成市町、さらには鳥取県日南町など同様な鉄道の歴史を持つ地域とも連携を図りながら、様々な取り組みを進めます。

古から伝えられる古事記や日本書紀、出雲國風土記など、記紀神話に由来する聖地や名勝・天然記念物「鬼の舌震」に代表される奥出雲ならではの自然豊かな数々の景勝地、さらに、たたら製鉄をはじめとする特色のある歴史や文化。伝統は、本町の恵まれた資源だと考えます。

また、亀嵩温泉、日本美肌湯温泉の一つである斐乃上温泉、佐白温泉、これら三つの温泉資源を有効活用した奥出雲美肌温泉郷のPRも、今後の重要な課題です。
さらに今年、JRトロッコ列車やさくらおろち湖を活用したサイクリングによる周遊観光、今春オープンする要害山交流拠点施設などを全国発信し、奥出雲ブランドの存在感と競争力を高めるべき重要年になると考えています。

今後は、県、雲南広域連合、斐伊川サミットの構成市町などの連携を深めるとともに、二十三



▲名勝「鬼の舌震」

年十一月に幅広い分野の参画を得て設立した「神々の国しまね 奥出雲町推進協議会」などの組織を活用し、行政、民間団体、地域住民が一体となった様々な誘客活動を進める考えです。
また、「古事記編纂千三百年記念フォーラム」、「奥出雲ガイド養成講座」の開催や、神話ガイドマップの作成などの神話民話に関する情報発信のほか、観光ガイドのスキルアップ、お土産等のグッズ開発、神話検定などに対する支援を新たに計画しています。

めまます。
また、島根県出身の彫刻家で、東京スカイツリーのデザイン監修もされている澄川喜一先生にお願いし、島根県の玄関口である三井野原地区内に、ヤマタノオロチのモニュメントを設置します。
今後も、観光振興の取り組みが一過性のものでなく、継続的な交流拡大と地域活力の向上につながるよう、地域の魅力を再発見し、磨きあげる活動を行います。

◆商工業振興

商工会による経営改善普及事業や地域振興巡回員設置事業等を支援するとともに、飲食店や商店への改修・改造の費用の一部を助成する町独自の商業活性化重点支援事業を継続していきます。

また、企業誘致を推進するため、広島の実業所と貸し工場の事業化について交渉中であり、更なる雇用の創出と定住対策に努めます。

◆子育て支援

「安心して子どもを生み、育てることのできる環境づくり」は最重要課題です。

◆国民健康保険事業

一月一日現在、国保加入世帯数は千九百七十八世帯、被保険者数三千四百九十二人で、加入世帯数では町全体の約四十割、被保険者数で約二十三・九割と、多くの方が加入されています。

二十四年度の国保会計の当初予算は、医療費を中心に対前年度比で二割減の十六億二千九百万円としています。具体的な税率や均等割の額は、六月定例議会に提案します。

◆学校教育の充実と社会教育の推進

学校教育については、各学校や地域の特徴を生かし、故郷を愛し、自ら考え主体的に行動できる、心身ともにたくましい人づくりを目標に、学ばふ意欲と学ぶ力の育成、ふるさと教育の推進に引き続き努めます。

特に、奥出雲町でしか体験できない「たたら操業体験学習」を継続して実施するほか、小学五年生全員参加による合同吾妻山キャンプを開催します。
また、小学生修学旅行事前

子育てに対する様々な不安や負担の軽減、仕事と家庭の両立支援などの施策を積極的に行い、子育て家庭の安心感と、子育て世代に望まれる環境づくりに取り組みます。

幼児園化については、四月に横田と八川の幼児園を開園しますが、横田幼児園は新園舎が完成する七月まで現在の保育所を利用する予定です。



▲4月に開園した八川幼児園

また、二十四年度には、阿井保育所と鳥上幼稚園の施設改修を行い、二十五年四月には、それぞれ幼稚園として開園できるように取り組みます。

そのほか、就学前の幼児教育の充実を図る観点から、子育て支援室に幼児教育推進の

ための専任職員を配置し、保育教育現場の職員とともに評価検証を行い、さらに幼児教育の充実に努めます。

また、安定的な保育士の確保を図るとともに、職員の研修参加等による幼児教育の充実を推進するため、新たに、仁多福祉会に対する支援を行う考えです。

子育て支援については、多子世帯の児童生徒の医療費無料化や保育料の軽減、出産祝金の支給などを引き続き実施します。

◆医療福祉

町立奥出雲病院では、二十三年四月から小児科医師と内科医師が、さらに九月からは整形外科医師が着任され、常勤医師八名体制となりましたが、依然として医療従事者は不足しており、医療を取り巻く環境は厳しい状況にあります。

今後も島根大学医学部や県担当部局への協力要請はもとより、医療スタッフ確保のための院内保育所の開設等、職場環境の充実を図り、地域の中核病院として診療体制の維持に努めます。

また、「奥出雲町地域医療確保推進協議会」や地域医療支援センター「デイネーター」と連携しながら、地域医療の確保に向けた活動に取り組めます。
安心して老いることのできる町を目指して、様々な仕組みづくりに取り組んでいます。が、二十四年度も、テレビ電話を活用した見守り事業、交通サポート事業、助け合い除雪、進入路整備事業などの高齢者生活支援事業を継続実施します。



▲20床増床される「あいサンホーム」

また、横田地区に整備中の高齢者生活ホームでのサービス提供や、買い物支援体制の構築など、高齢者対策の一層の充実を図ります。
介護保険関連事業では、現在整備中の「あいサンホーム」の二十床増床により待機者の解消に努めるとともに、増加する認知症高齢者や家族を、地域全体で支える体制の構築を目指し、認知症地域支援推進員を配置します。

これら地域包括ケアの推進により、要介護状態になっても地域で安心して生活できる体制の整備はもとより、要介護状態にならないよう、事業の充実を努めます。

なお、これらの事業は、現在策定中の老人福祉計画及び介護保険事業計画により、計画的に実施します。

また、障がい者施策については、相談支援員を配置し、障がい者や家族が相談しやすい体制の整備に努めるとともに、今年度策定する障がい福祉計画に基づき、必要な対策を講じます。

そのほか、新たな「奥出雲町げんきプラン21」に基づき、「健康づくり推進協議会」を中心に関係機関・団体との連携を図りながら、きめ細かな健康づくり活動を続けるとともに、検診活動や保健活動の一層の充実を図ります。